

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	C区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	とくていひえいりかつどうほうじん だこおん	団体ウェブサイトURL	
	特定非営利活動法人 打鼓音		
代表者職・氏名	理事長 金子 肇		
制作団体所在地	〒 246-0031	最寄り駅(バス停)	三ツ境駅(南台入口)
	神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷1-19-9		
電話番号	045-922-1677		
ふりがな 公演団体名	そうさくわだいこしゅうだん だこおん	団体ウェブサイトURL	
	創作和太鼓集団 打鼓音	<a href="https://www.dako-on.jp">https://www.dako-on.jp</a>	
代表者職・氏名	代表 渡邊 晃伸		
公演団体所在地	〒 241-0801	最寄り駅(バス停)	十日市場駅(星槎高校前)
	神奈川県横浜市旭区若葉台4-35-1		
制作団体 設立年月	2007年6月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長 金子 肇 副理事 渡邊 晃伸	役員4名 監事1名 事務員2名 正職員11名(演者) アルバイト8名 賛助会員180名(後援会会員)	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	秋本 顕
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	柴戸 歩
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:info@dako-on.com">info@dako-on.com</a>		

<p><b>制作団体沿革・ 主な受賞歴</b></p>	<p>【特定非営利活動法人打鼓音】  2004年 創作和太鼓集団打鼓音 結成  2005年 和太鼓教室「響太鼓教室」の事業スタート  2007年 特定非営利活動法人打鼓音として活動を開始  2011年 総務大臣杯ジュニアコンクール全国大会 特別賞  太鼓祭くまがやドーム日本一決定戦 優勝  2013年 太鼓祭大宮ソニックシティ日本一決定戦 優勝  2015年 太鼓祭大宮ソニックシティ日本一決定戦 優勝 文部科学大臣賞受賞  2016年 特定非営利活動法人打鼓音10周年記念式典・コンサート実施・運営  2019年 岡谷世界和太鼓打ち比べコンテスト一般の部 優勝  岡谷世界和太鼓打ち比べコンテスト大太鼓の部 優勝  2021年 第2回七人制和太鼓選手権大会 優勝  太鼓祭inさがみはら 第3回関東大会 優勝  太鼓祭in埼玉 大15回東日本・北日本大会 優勝  太鼓祭2021第13回日本一決定戦大太鼓部門 優勝 文部科学省大臣賞受賞  2022年 横浜市長表敬訪問  横浜市長表敬訪問・緑区長賞受賞  日本太鼓ジュニアコンクール全国大会 特別賞  第2回かつぎ桶バトル 最優秀賞  2023年 日本太鼓ジュニアコンクール神奈川県予選 優勝  2024年 第1回みちのく大太鼓コンテスト 一般部門・ジュニア中学生部門 最優秀賞  第55回市民祭岡谷太鼓まつり世界和太鼓打ち比べコンテスト  大太鼓一人打ちジュニアの部・ジュニア団体の部 優勝  第22回神恩感謝日本太鼓祭第3回大太鼓一人打ちコンクール 最優秀賞</p>		
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>2005年より学校公演実績あり 累計 418校 約430公演   (直近)  2020年度 「打鼓音和太鼓公演」全国10校(自主公演)  2020年度 「打鼓音和太鼓公演」全国5校(音楽事務所依頼)  2021年度 「打鼓音和太鼓公演」全国19校(自主公演)  2021年度 「打鼓音和太鼓公演」全国9校(音楽事務所依頼)  2022年度 「打鼓音和太鼓公演」全国36校(自主公演)  2022年度 「打鼓音和太鼓公演」全国10校(音楽事務所依頼)  2023年度 「打鼓音和太鼓公演」全国41校(自主公演)  2023年度 「打鼓音和太鼓公演」全国6校(音楽事務所依頼)  2024年度 「打鼓音和太鼓公演」全国28校(自主公演)  2024年度 「打鼓音和太鼓公演」全国4校(音楽事務所依頼)  ※2024年度文化庁巡回公演事業採択を受けている</p>		
<p><b>特別支援学校等における 公演実績</b></p>	<p>・和太鼓ワークショップ交流  2005年より星槎グループの中学校・高等学校・通信制高校・フリースクールの生徒との交流を全国で行ってきました。星槎グループは全国に学習センターを置き、不登校の生徒や人との関わりが苦手な子ども、障害がある子どもたちを受け入れる学校として全国で活動を行っています。  →交流内容は和太鼓の公演を披露、和太鼓の歴史・文化・効用を目的とした和太鼓ワークショップを開催。毎年全国の星槎グループの学校から依頼が来ている。  ・和太鼓公演  東京都立青島特別支援学校  神奈川県横浜市立港南台ひの特別支援学校  神奈川県横浜市立本郷特別支援学校  横浜国立大学教育学部附属特別支援学校演奏</p>		
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/XLZoilxm2vo?si=ioj0-QTi7tq4puNn">https://youtu.be/XLZoilxm2vo?si=ioj0-QTi7tq4puNn</a></p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

別添	なし
----	----

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 創作和太鼓集団 打鼓音 】

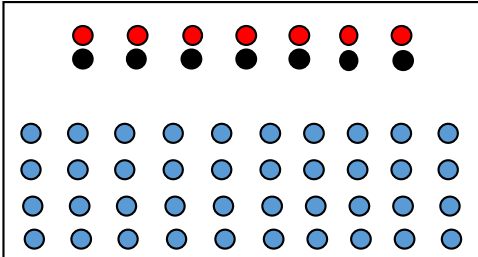
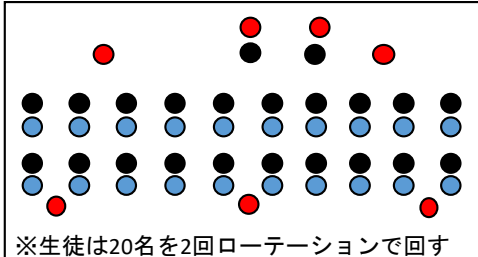
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	和太鼓 学べる芸術鑑賞会			
企画のねらい	日本の伝統文化である和太鼓を総合学習の観点で捉え、伝統文化の歴史は社会に、大小様々な大きさの太鼓を尺計算に変換し算数、数学に。太鼓の皮は動物の皮を使用していることから理科へと繋げ、すべてが総合学習に結びつく学べる芸術鑑賞会の基盤となっている。MCで話す内容も学べる・ためになる内容を考え、児童・生徒も見るだけの鑑賞ではなく学びの多い鑑賞会となることを目標としている。また鑑賞会後には独自で作成している事後学習プリントを展開。公演後の振り返りに繋げる事ができると考える。			
演目概要・演目選択理由	<p>1.「祝伝」は桶胴太鼓を担ぎながらサプライズ入場し、移動しながら太鼓を打ち鳴らす、音と動きで楽しめる演目。お祝いを伝える楽曲として作曲された。児童・生徒へは和太鼓の初切り太鼓として桶胴太鼓のアクロバットなパフォーマンスを観て聴いて楽しめる和太鼓の導入曲として選択した。</p> <p>2.「大太鼓一人打ち」は大太鼓の全国大会で優勝したメンバーが大太鼓を使用して太鼓を打ち鳴らす迫力満点の演目。元来大太鼓というのは縁起物として古くより日本に根付いたものである。大太鼓の迫力ある音量、大会優勝者が打つ渾身の太鼓演目は生徒たちの全体に響き渡り、魅了させる内容となる。日頃観る事の出来ない大太鼓を生で聞いてもらうために選択した。</p> <p>3.「華囃子」はお囃子を現代風にアレンジしたお囃子調の演目。本公演では代表生徒とのコラボ曲として演奏。古くより伝わるお囃子を曲のベースとして”昔からあったものの新しい形”をテーマに伝統的な調律をベースに、聞いていて踊りたくなるような楽曲となっている。生徒へは伝統音楽と現代音楽を味わえる内容として観て聴いて手を動かして楽しめる内容となっている。伝統音楽の新しい形として選択した。</p> <p>4.「和太鼓体験ワークショップ」は午前中のワークショップに参加出来なかった生徒に簡単に太鼓体験を行う。20名×2回のローテーション。</p> <p>5.「獅子舞」は獅子を使用して舞を披露する演目。客席内を練り歩き躍動感と至近距離での見学が魅力の演目。伝統芸能として古くより縁起物として獅子舞がお正月に披露される。本楽曲は寿獅子をアレンジしたオリジナル楽曲となる。囃子に合わせて獅子が舞い児童・生徒の座る客席まで練り歩き、身近で獅子舞を感じてもらう。伝統芸能として選択した。</p> <p>6.「弾打」は演者たちが力の限り、太鼓を打ち鳴らす曲。全国大会で日本一を獲得した演目。東日本大震災を機に作曲された応援・エールを贈る演目。本公演の中で一番の迫力ある楽曲となる。長胴太鼓・締太鼓・大太鼓・鳴り物を渾身の力で打ち鳴らすシーンでは会場全体が振動するほどの迫力となる。児童・生徒へは夢や希望を持ってもらいたいという思いで演目を選択した。</p> <p>7.「ZENKAI」は全国大会にて文部科学大臣賞を獲得した演目。導入部分にて児童・生徒は手拍子で参加。観て聴いて楽しめるパフォーマンスと所々で起こる笑い所が曲の特徴。児童・生徒が演目に参加することで一緒に盛り上がるエンディング曲となる。生徒へは和太鼓を通して伝統芸能の魅力や楽しさを知ってもらう楽曲として選択した。</p> <p>8.「鼓響」は様々な太鼓や篠笛・踊り・鳴り物を交えた曲。最後には太鼓の上を飛び越えるアクロバットなシーンが魅力。アンコール曲として聴いている”児童・生徒の健康・幸せ・益々の活躍を”願掛けし演奏する願掛け太鼓の楽曲。児童・生徒が本公演を通して伝統音楽和太鼓の歴史・文化を視覚で捉え、耳と身体で音を感じることで和太鼓という楽器を知ってもらうため選択した。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>「華囃子」 午前中のワークショップで演目の習得、本公演時に演者と代表児童・生徒40名程が共演し演奏に参加。リズムは簡単なフレーズを繰り返し打つ場面とサブフレーズではリズムを全体で合わせて打つことにより演奏者と一体感が出る内容となる。</p> <p>「和太鼓体験ワークショップ」 和太鼓の台数に限りがあるため午前中のワークショップに参加出来なかった児童・生徒向けに本公演時に簡単な体験ワークショップを行う。簡単なリズムを演奏者に合わせて真似しながら打つ「まねっこ太鼓」というリズム遊びに合わせて体験。参加者は1回最大20名、2回ローテーションまで対応可能(最大参加者数40名)在校生徒数が40名以下の場合難易度を上げたワークショップ内容に変更。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	本公演共演40名まで 体験40名まで	
		鑑賞人数目安	500名	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>1. 祝伝(桶胴太鼓パフォーマンス)⇒作曲/演出:渡邊晃伸 2. 大太鼓一人打ち(日本一受賞者による演奏)⇒作曲/演出:江下光利 3. 華囃子(篠笛と和太鼓のお祭り演目)⇒作曲/演出:佐藤ふん太 ⇒「華囃子」で代表生徒が共演します 4. 和太鼓体験ワークショップ(生徒40名ほど体験可能) (休憩) 5. 獅子舞(獅子舞による祝い獅子)⇒演出/振付:渡邊晃伸 6. 弾打(応援エールを送る曲)※日本一受賞曲⇒作曲/演出:渡邊晃伸 7. ZENKAI(参加型演目)※文部科学大臣賞受賞曲⇒作曲/演出:渡邊晃伸 8. 鼓響(篠笛と和太鼓と踊りのアンコール曲)⇒作曲/演出:渡邊晃伸</p>			
出演者	<p>渡邊晃伸※1 中山嘉子※1 境学※2 江下光利※2 秋本顕※1 吉富朱莉※1 安村聡理※1 吉富恵美 坂本悠菜※2 高野将希 好田知佐子 境江里子※1 吉富光晟※1 ※1印のメンバーは和太鼓コンテスト等で日本一タイトルの保持者 ※2印のメンバーは個人で大太鼓一人打ちコンテストの日本一タイトル保持者 (上記メンバーから当日は7名が伺います)</p>			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>1. 渡邊晃伸 (創作和太鼓集団打鼓音代表。作曲・演出を務める。公演時は司会、MCを務める) 2. 中山嘉子 (創作和太鼓集団打鼓音演者リーダー。公演時はメンバーの総括を務める) 3. 江下光利 (創作和太鼓集団打鼓音メンバー。大太鼓一人打ちの大会で日本一6冠を達成した。当日は主に大太鼓パートを担当する)</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 7 名 スタッフ: 0 名 合計: 7 名	運搬	積載量: 1.25 t 車長: 4.8 m 台数: 2 台	

<b>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</b>	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度		
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	9時30分	9時30分～10時30分		13時30分～15時	15分	15時～16時	16時	
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。							
<b>本公演 実施可能日数目安</b>  <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月		7月		8月		9月	
	15日		10日		0日		15日	
	10月		11月		12月		1月	
	15日		15日		10日		10日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		90日
<b>公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)</b>  <small>※採択決定後、図面等の提出をお願いします。</small>								
	(図1) 本公演時、体育館舞台上に楽器配置をした状態。				(図2) 本公演共演演目の楽器配置をした状態。			
								
	(図3) 男子太鼓打ちの演奏様子		(図4) 女子太鼓打ちの演奏様子		(図5) 大太鼓の演奏様子		(図6) 桶胴太鼓の演奏様子	
								
	(図7) 篠笛の演奏様子		(図8) チャッパの演奏様子		(図9) 獅子舞の演奏様子			
	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否		該当なし		該当コンテンツ名			
	該当事項がある場合		権利者名		許諾確認状況		内部保有	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

## 【公演団体名 創作和太鼓集団 打鼓音 】

ワークショップのねらい	<p>和太鼓を初めて観る・聴く・打つ児童・生徒たちが和太鼓の魅力「伝統音楽」として古くから日本人に愛された郷土を体感することで所作や礼節を学び、共感することができます。また和太鼓をただ打つだけではなく和太鼓の歴史や名称・特徴などを知ることによって太鼓に対する視点が変わることが期待できます。古くから日本人がなぜ和太鼓を用いて様々な祭り・芸能・民謡・興行・号鼓などを行っているのかをわかりやすく解説しながら和太鼓を用いて実際に実演します。それにより生徒たちが和太鼓の文化を知ることが期待できます。小学校・中学校の学習指導要領にて音楽の授業で「和太鼓」の導入を推進しておりますが和太鼓は高価な楽器の為、なかなか触れる事ができません。本ワークショップを通して児童・生徒たちが和太鼓文化を少しでも身近に感じ、日本の歴史を体験することができます。また和太鼓鑑賞復習プリントを用いて、本事業を実施した後に事後学習を行うことが出来ます。これにより理解度が深まります。</p> <p>またワークショップ・本公演を行い、体験とプロ演奏者と共演することで和太鼓のリズム感を肌で感じながら臨場感を共有することで普段味わうことの出来ない経験を体験・体感することができます。これは座学からでは得ることのできない経験として生徒たちの心に深く残るものとなります。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	40名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>標準90分</p> <p>①団体紹介・講師紹介(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桶胴太鼓を担いで入場。1分程度の模範演奏をします。</li> <li>・演奏後に団体の紹介と講師の紹介をします。</li> </ul> <p>※生徒の配置は図10を参照ください。</p> <p>②和太鼓の歴史・名称・特徴を知ろう(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和太鼓がどのようにして生まれたのか、当時に再現しわかりやすく解説をします。</li> <li>・和太鼓の種類を1種類ずつ紹介します。また和太鼓の種類によって使われる用途なども説明。</li> <li>・和太鼓の特徴や効用などを実物を用いながら説明します。</li> </ul> <p>③和太鼓の基礎打法・基礎演目を学ぼう(25分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和太鼓の打法を学びます。20名の2回ローテーションで交代しながら和太鼓を学びます。</li> <li>・バチ(太鼓を打つ道具)の持ち方・太鼓への構え方・太鼓の打ち方を学びます。</li> <li>・基本リズム(全音符・2分音符・4分音符・8分音符)を用いた簡単な基礎演目を学びます。</li> </ul> <p>基礎演目を習得後は2チームに分かれて簡単な発表会を行います。</p> <p>※児童・生徒の配置は図11を参照ください。また、図には記載していませんがローテーションで太鼓を打つため待機児童・生徒は図の下の部分で見学。</p> <p>(休憩)</p> <p>④共演演目「華囃子」を学ぼう(35分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本公演で演奏する「華囃子」を学びます。お囃子調のためリズムは一定で同じフレーズを繰り返し打つ為、誰でも簡単に覚えることの出来る演目です。本公演では代表児童・生徒40名までの共演になりますがワークショップ時は参加児童・生徒全員で学びます。</li> </ul> <p>⑤講師と一緒に演奏をしよう(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した「華囃子」を本公演出演者と一緒に演奏します。(1~2回程度演奏を実施予定)</li> </ul> <p>本公演での演奏披露に向けて、礼節や舞台上がる姿勢についても説明を行うことで本番に対する責任感と協調性を育むことが出来ます。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>(図8)ワークショップ最初の配置 ※体育館半分ほど使用したい</p> <p>●生徒 ●講師 ●太鼓</p>  <p>(図9)ワークショップ実習の配置 ※体育館半分ほど使用したい</p> <p>●生徒 ●講師 ●太鼓</p>  <p>※生徒は20名を2回ローテーションで回す</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 創作和太鼓集団 打鼓音】

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

### ①本事業に対する取り組み姿勢

#### 【本事業を通じて実現したいこと】

当会は元々、高校の和太鼓部で活動していた生徒が卒業後も和太鼓を続けていきたいという思いから立ち上がった和太鼓集団です。そのことから当会では若い世代の子どもたちの育成に力を入れています。全国の小学校・中学校・高校への学校公演を主軸に置き、神奈川県内では多くの保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校への和太鼓指導を実施しています。公演では観ている生徒たちに「夢や希望を与えたい」というコンセプトの基、公演活動を行っています。ひとえに和太鼓と言っても大体の生徒が想像するのは「お祭り」などの和太鼓です。和太鼓は古くから存在していますが、現代の和太鼓の形は昔のものと少し変化しています。その点から「昔からの文化を新しい形」に変化した創作和太鼓集団として次世代の子どもたちの豊かな感性を育む足掛かりになれるような公演を目指しています。

#### 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

観て・聴いて楽しむだけではなく、公演中のMCにて和太鼓の雑学や子どもたちが素朴に抱く疑問を紐といて説明し、和太鼓を用いて学校の教育的分野である国語・算数・理科・社会を取り入れたクイズ問題を出題し、より理解度が深まる内容を心掛けています。和太鼓を知ることで日本人が大切にしてきた文化を知る事が出来る。「モノづくりへのこだわり」「古きものを大事にする心」「礼節」など和太鼓を知ることで日本人の精神を知ることが出来ます。演者は児童・生徒・職員との接し方も挨拶を一番大事にしています。元気いっぱい挨拶と返事を心がけて接するようにしています。当会では上記のように教育的な要素も取り入れた「学べる芸術鑑賞会」として和太鼓公演を実施しています。

### ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

#### 【学校との連絡調整について】

実施校が確定したタイミングで実施校のご担当者の方へお電話をして最初のコンタクトを取ります。その際、簡単に公演までの流れをご説明いたします。まずはご連絡方法として直接お電話にて打ち合わせを行うか、メールを通してご連絡を行うかを確認しています。(電話だと学校の先生がご不在の事が多い為)

その後、こちらからワークショップ日程を決める手筈を組みワークショップの日程を決めていきます。ワークショップ日程が決まり次第、当日のタイムスケジュール案や当日学校様に用意して頂きたい備品、当日の交通手段などが記載されている「連絡表」をこちらで作成します。そのデータをFAXまたはメールにてお送りし学校様でご検討いただいております。そのデータをもとに当日の動静を確定していきます。(電話や訪問での打ち合わせは労力や時間を使ってしまう為、連絡表を導入しています。)

学校の先生が不安を抱える公演時の下準備等も柔軟に対応することができ、学校の備品をあまり動かさずに持ち込み機材を調整することで学校側へのリスクを減らす取り組みも実施しております。

#### 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

事前調整の段階で和太鼓の「音」についてのご質問が多く寄せられるため、事前に音に敏感な児童・生徒には「イヤーマフ」などの展開を可としています。また体育館内・ホール内に居ることができない場合は別室や施設外からの鑑賞も可と連絡をしています。

特別支援学校などでは特に音に敏感な児童・生徒が多い為、和太鼓の音量を小さくするために使用するバチにも工夫をし対応をしています。また音や知らないものへの恐怖心を拭うため、ワークショップにて体験の機会を設け和太鼓に直接触れてもらうことへの取組みも行っています。

当会の原点は星槎グループという学校機関が媒体となり立ち上がりました。個性豊かな子どもが多く在籍する学校であることから教育的視点での和太鼓公演やワークショップを多く行っています。メンバーの中には教員も在籍しており、特色をもった子どもへの対応も柔軟に行っております。

#### 【本公演実施後の対応について】

和太鼓鑑賞復習プリントとして当会が独自で作成している「事後学習プリント」を用意しています。

また本公演終了後も共演演目の「華囃子」は著作権フリーの為、継続して演奏することが可能です。演奏希望がある場合は別途対応を行います。

別添	なし
----	----

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名 創作和太鼓集団 打鼓音】

C区分で事業を実施するに当たっての工夫	<p><b>①離島・へき地等における公演実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度「打鼓音和太鼓公演」岩手県矢巾町立矢巾東小学校</li> <li>・2018年度「打鼓音和太鼓公演」静岡県長泉町立長泉南小学校</li> <li>・2019年度「打鼓音和太鼓公演」徳島県藍住町立藍住西小学校</li> <li>・2020年度「打鼓音和太鼓公演」福岡県篠栗町立勢門小学校</li> <li>・2020年度「打鼓音和太鼓公演」鹿児島県始良市立昌小学校</li> <li>・2022年度「打鼓音和太鼓公演」青森県中泊町立小泊小学校</li> <li>・2022年度「打鼓音和太鼓公演」青森県中泊町立中里小学校</li> <li>・2022年度「打鼓音和太鼓公演」青森県中泊町立薄市小学校</li> <li>・2022年度「打鼓音和太鼓公演」青森県中泊町立武田小学校</li> <li>・2023年度「打鼓音和太鼓公演」福岡県粕屋町立大川小学校</li> </ul> <p><b>②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫</b></p> <p>【特殊な事情がある地域での実施にあたっての工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公演で使用する楽器とワークショップで使用する楽器は、本来は別ですが和太鼓は大きさをコンパクトに出来ない楽器の為、公演とワークショップで使用する楽器を同じにします。それにより機材運搬車を減らすことができます。また演者も1人2役～3役を行うことで人員の削減も行います。</li> <li>・学校側のリスクを減らす努力を行っており、機材搬入と舞台仕込みは最短1時間で完了します。それにより前日の仕込みが必要なく学校の先生方にも当日のみの対応でご案内可能です。また照明や音響も持ち込み機材をなくし、学校にある照明と音響機材で公演が行えるため、学校側の余計な手間を省くことができます。控室等も極力使用せず、舞台袖又は一部屋(舞台袖がない場合)のみ用意していただければ衣装への着替え等も行えます。基本的には体育館以外の部屋は使用しないで対応が可能です。搬出も公演終了から完全撤収までを1時間で行うことができます。</li> </ul> <p>【質を保つための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公演では楽器をただ演奏するだけでなく、視覚的に演劇のように演者自身が児童・生徒に観て欲しい部分に視野を集めるなどをしてそれぞれの個性が目立つ演出を多く入れています。それにより小規模公演でも様々な部分に視野がいくことで広い視野での公演鑑賞が可能になります。また演出作りにこだわることで和太鼓を集団で打つだけでなく「個人が見せる部分」を主張をすることができます。</li> <li>・和太鼓は打楽器の中でも特に大きな音になる楽器の為、小規模公演でも演奏者全員で打つ「揃い打ち」などはかなりの見ごたえになります。総合的に個人技と団体技を織り交ぜる事で小規模開催であっても迫力にかける内容にならないように公演作り・演出面にこだわりを持っています。</li> </ul> <p><b>③C区分応募における、費用面の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型公演になると通常車両を3台用意しておりますがワークショップ・公演で使用する楽器を一緒にすることや持ち込み音響・照明を無くすことで車両を2台に削減可能にします。</li> <li>・装飾備品や照明機材を無くすことで専属スタッフの経費を無くしています。</li> <li>・車の移動は公演に行く演奏者が行うことでドライバーの人件費をカットしています。</li> <li>・著作権がかかる楽曲等は使用しないで当団体の曲のみで公演を構成しています。</li> </ul>
---------------------	--